

地域政策課から、8月までの地域コミュニティ組織の活動状況を紹介します。

下中地区

7月12日 みんなのふくしたいけんひろば

下中地区まちづくり委員会の福祉・健康づくり分科会では、毎年、福祉体験講座を開催しており、今年は新たに「ボッチャ」の体験ブースも設け、子どもから高齢者までの多世代交流も図りました。

当日は約80人が参加し、手話や車いすなど、障がいのある人の生活を疑似体験することで、福祉に対する理解を深めるとともに、地域のつながりの大切さを感じるひと時となりました。



富士見地区

7月17日 ヨガ・将棋教室

富士見地区まちづくり委員会の健康分科会では、ヨガ教室と子ども将棋教室を毎月開催しています。ヨガ教室では、インストラクターにならい大きく体を動かすことで、健康増進に繋がっています。また、子ども将棋教室では、多くの子どもたちが集い、大人と一緒に将棋を楽しんでいます。



前羽地区

7月21日 前羽海岸クリーン作戦

前羽地区まちづくり委員会では、前羽青少年健全育成連絡協議会と共同主催で、「第30回前羽海岸クリーン作戦」と題し、海岸清掃を行いました。酷暑の中での清掃でしたが、30回という節目の会だったこともあり、地域の子どもから高齢者まで幅広い年代の方が参加してくれました。

地域の貴重な資源を後世に継承する重要な取組です。（参加者 415名 回収量 1,050kg）



東富水地区

7月26日 東富水納涼サマーフェスタ

絆ふかめたい東富水（生活環境・地域振興分科会）では、東富水小学校で行う東富水納涼サマーフェスタを盛り上げるため、小学生対象の当てくじのブースを出展しています。当日はたくさんの子どもが訪れました。また、今年度は、実行委員会で打ち上げ花火を実施し、近くで上がる花火に、参加者の皆さんも興奮していました。





新玉地区

7月29日 夏休みラジオ体操

新玉小学校では、7月22日から8月29日まで、土・日・祝日を除いて毎日ラジオ体操が開催されています。この日は子どもと大人、合わせて約40名と多くの住民が参加しており、子どもたちはカードにスタンプを押してもらい、友達と話しながら楽しく参加していました。

通学路では見守り活動も行われ、子どもたちは元気に挨拶を返しながらラジオ体操に向かっていました。



上府中地区

8月7日 お結びころりん

上府中地区まちづくり委員会では、普段、第2土曜日に実施している子ども食堂「お結びころりん」を、夏休み期間中ということで、平日に実施しました。参加した子供たちは、みなでお絵描きしたり、白玉を作ったりして過ごした後、自分たちで作った白玉が入ったフルーツポンチを楽しく食べました。大人も子供もわいわいおしゃべりしながら交流を深め、みんなで食べる食事は格別です。

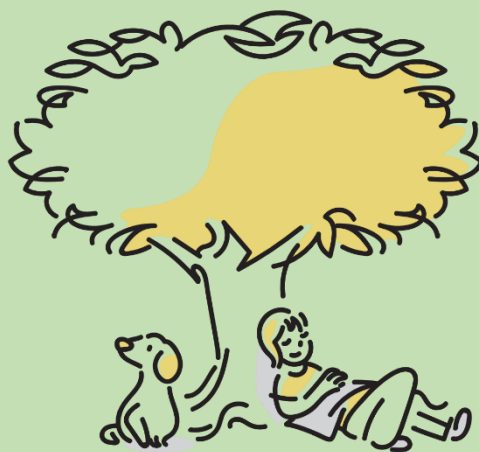




富水地区

8月23日 光る泥だんごづくり

富水地区まちづくり委員会の子どもサポート分科会では、光る泥だんごづくり教室を実施しました。一昨年から続く大好評の企画ですが、今回は、富水地区の小学校低学年児童を対象とし、当日は親子19組が参加しました。参加した親子は、協力しながら泥だんごづくりを楽しみ、夏の思い出作りに繋がりました。



「エディブル・スクールヤード妄想会議」を開催しました！ ～地域活動の裾野を広げる新たな場づくり～

エディブル・スクールヤード

本市では、新たな担い手の発掘を目指し、農と食を介した体験を提供するESY (Edible School Yard) の取組を進めています。

今年3月と7月には、ESYに関連する市内の実践者を一堂に介する「ESY妄想会議」を開催し、多彩な実践を共有するとともに、今後の取組の方向性などについて意見交換を行いました。

今回は、地域活動の裾野を広げる新たな場となるESYの概要と、妄想会議の様子を紹介します。



エディブル・スクールヤード(ESY)とは？



多摩市立愛和小学校ガーデン(2017年当時)

出典：一般社団法人エディブル・スクールヤード・ジャパンHP

直訳すると「ESY=食べられる校庭」と呼ばれ、校庭の一角に菜園をつくり、先生と子どもたちに加え、保護者や地域住民も参加しながら、子どもたちが作物を育て、収穫し、調理し、食べることを授業の一環として行う教育プログラムです。

1995年に、アメリカ・カリフォルニア州の公立中学校の校庭に、地元オーガニックレストランのオーナーシェフであるアリス・ウォーターズ氏によって創設されました。

日本においても、一般社団法人エディブル・スクールヤード・ジャパン (ESYJ) が、モデル校となる多摩市立愛和小学校をはじめ、各地でESY教育の実践を行っています。

子どもたちは、これらの一連の体験を通じて、生命のつながりだけでなく、自然や地域とのつながりを学びます。

加藤市長が語るESYの価値



ESYによる農と食を介した体験は、学校・地域・保護者・生産者などとの関わりを通じて、多義的な価値を持っています。

また、現代社会の様々な課題に対し、多角的な視点から物事を考える実践の場になると信じています。

様々な形のESYが小田原の多彩な自然環境にに応じて育っていく未来を目指しています。

小田原エディブル・スクールヤード (ESY)

【小田原ESYとは】

小田原エディブル・スクール(SCHOOL)ヤード =
子どもたちが学び育つ居場所

Sustainability (持続可能な)
Community (地域コミュニティによる)
Hands-on (実践的で) Open (開かれた)
Ownership (主体的な) Learning (学び)

【場の価値】

- 食と農をめぐる子どもたちの学び
- 五感を刺激する実体験
- 地域ぐるみで育ちの支援
- 多世代との交流創出
- 子どもが主役になれる居場所

【大事にしたいこと】
植えて・採って・みんなで食べる

人と関わり
地域で育つ
地域

生きることの
主体的学び
教育

生産者との
出会いと感謝
農業

【既に行われている活動】
農と食を介した学びや
世代間交流を通じた
実践の場が多数存在

【小田原が持つ可能性】
青里川海老・アサギの
多彩な自然環境や
市民力・地域力の根付き

小田原はESYの宝庫

小田原ESYの考え方

ESY妄想会議参加者からの意見

【第2回ESY妄想会議参加者】

上府中地区農業指導プロジェクトチーム／万年地区青年会連合・志村屋米穀店／
市教育指導課／あきさわ園／太田農園／小田原有機の里づくり協議会／
かながわ西湘農業協同組合／NPO法人こころみ／

シニアネットワークおだわら&あしがら／NPO法人 子どもと生活文化協会

※その他、一般社団法人ESYJなど、ESYに関心のある方々がオンラインで参加しました。



第2回ESY妄想会議の様子

子どもたちが学び育つ場を、学校・地域・保護者・生産者などの地域コミュニティが支えていくことが大事!!

小田原は地域資源がコンパクトでバランスよく揃っており、ESYの取組がさらに広がっていく可能性を秘めている!!

田んぼにただいて、足を突っ込むだけで気持ちいい、といったレベルでもいいので、子どもたちが農に関わることが大事!!

ESYで生まれる「五感」や「美しさ」は、子どもたちの感性を豊かにし、「生きる力」を育むことにつながる!!



ESYのビジョンをどれだけ多くの人と同じ熱量で共有し、子どもたちが主体的に動くようになるまで、地域の大人がチームワークを発揮して関わることが大事!!

あまり野菜が好きではなかった子どもが、野菜を育てることに主体的に関わることで、自ら育てた野菜は食べることができた!!

シニア世代にとっても、ESYとの関わりが自分自身の生きがいや居場所になる可能性がある!!

畑での関わりは子どもたちにとって宝のような活動!!

まとめ



計2回開催したESY妄想会議では、小田原版ESYをさらに発展させていくため、学校内に捉われず、地域全体で子どもたちの学びと育ちを支えていく、小田原ならではの方向性と地域コミュニティの重要性が共有されました。

小田原版ESYは、特に型を決めることなく、それぞれの実践現場の想いを尊重し、互いに響き合いながら、小田原の多彩な実践と地域資源を活かしていきます。

今後は、実践者の想いも込めながら情報発信を行い、ESYの認知と共感を生み出し、参加・実践へとつなげていきます。

ご興味のある方は、お気軽に地域政策課(33-1388)までご連絡ください。